

# みんなの人生にある ロビンフッド劇

元あざみ寮 石原繁野



舞台は「メチャメチャ、ゴチャゴチャ」。それなのに、そこにはきちんと秩序が流れているのです。

成人としての生き方を模索するみんなを、今どんなかたちで応援しなければならぬか、劇をすることがその方法の一つになるのではないかと思われました。

## ◆7回目のロビンフッド劇

今年3月、第7回寮生劇「ロビンフッド・魔法の大冒険」が上演されました。これには脚本・演出内藤裕敬（南河内万歳一座）はじめ、大阪を中心に活動する60人を超えるプロの演劇人の応援がありました。劇場公演を続けてきましたが、外での公演では3分の1の人が参加できない加齢の現状があり、体育館を劇場に仕込んでの上演となりました。

ロビンフッド劇の産みの親の一人、音響デザイナーの大野松雄さんが愉快な文章をチラシに書いています。

石部でロビンフッドが始まる。久しぶり……「ロビンフッド・魔法の大冒険」！聞いただけでワクワクする。

1979年から5年毎に上演された「ロビン・シリーズ」。第1回「ロビンフッドの冒険の冒険」から36年!! 寮生さんも僕たちも、同じ様に年を重ねた。（アタリマエノコトデス）……中略……障がいがあるとなかろうと、プロ、アマの区別なく、ひたすら「メチャメチャ、ゴチャゴチャ」を楽しむ、その混沌から生まれるハーモニーとルール。

ああ、もみじ・あざみの皆さん、スタッフの皆さん、客席の皆さん、2015年春、弥生のひと時を「内藤マジック」にしばし酔いしれよう……そして「ユックリミンナデイキノビ」よう！

これを読んだとき、加齢が進むみんなの舞台での問題ばかり心配している自分に、平手打ちを受けた思いでした。寮生は身体的、精神的な老化が深刻になっていて、職員はその介護にでんてこまいの日々。「転ばないよう

……。

芸術は面白い、人間は面白い。心に元気を持たなければ。

マスコミに売れる売れないで一喜一憂することは無い、と私は思うの」

（『遺し書き』 仲代達矢、中公文庫）

役者として食べていくことはたいへんです。売れないとお金が入ってきませんから、どうしたら売れるだろうと、キョロキョロするんですね。

生活の問題はありますが、プロの役者をめざす人には、「売れないかな、売れないかな」とキョロキョロするより、「どうにか

◆生涯修行、役者を生きる

無名塾の主宰者として私のパートナーであった宮崎恭子が、無名塾の入塾式で、こんな言葉を残しました。

「初めはみんないろんな理由で俳優になろうとしているの。有名になりたいとか、お金持ちになりたいとか。それは何でもいいの。でも、不思議に、結局、俳優として残っているのは、お芝居が好き、芸術が好きという人だね。

あまりにも日本の社会は経済中心に動いてきて、今は役者までそうなっちゃって。でも、売れる、売れないにとらわれると哀れっぱいのよね。（略）

貧しかろうと何であろうと、価値観なのよね、やっぱり。

人間って面白い、面白い、面白いんだから



『おれたちは天使じゃない』

食べられればいい。芝居をすることがおもしろいんだ」ということを中心に考えてとりくんでほしい。

無名塾では、「生涯修行」という言葉を大事にしてきました。これは、他の仕事や人間の生き方に通じる、大切な考え方だと思っています。

私は去年の秋、一人芝居『バリモア』に挑戦しました。アメリカの名優、ジョン・バリモアの晩年を描いた作品です。この夏には『バリモア』の再演を行い、秋には能登演劇堂20周年記念として『おれたちは天使じゃない』を上演します。

私自身、「生涯修行」を胸に刻んで、役者の仕事にとりくんでいきます。（談）

『バリモア』  
7月14日～20日 仲代劇堂（東京）  
『おれたちは天使じゃない』  
10月31日～11月15日 能登演劇堂  
2016年3月5日～3月13日  
世田谷パブリックシアター

無名塾  
（TEL）03・3709・7802  
（FAX）03・3709・7506  
<http://www.mumeijuku.net/>



未完。  
仲代達矢  
KADOKAWA

サイン本を2名の方にプレゼント。ご希望の方は、氏名、住所、電話番号を明記の上、7月13日（月）必着で編集部まで。